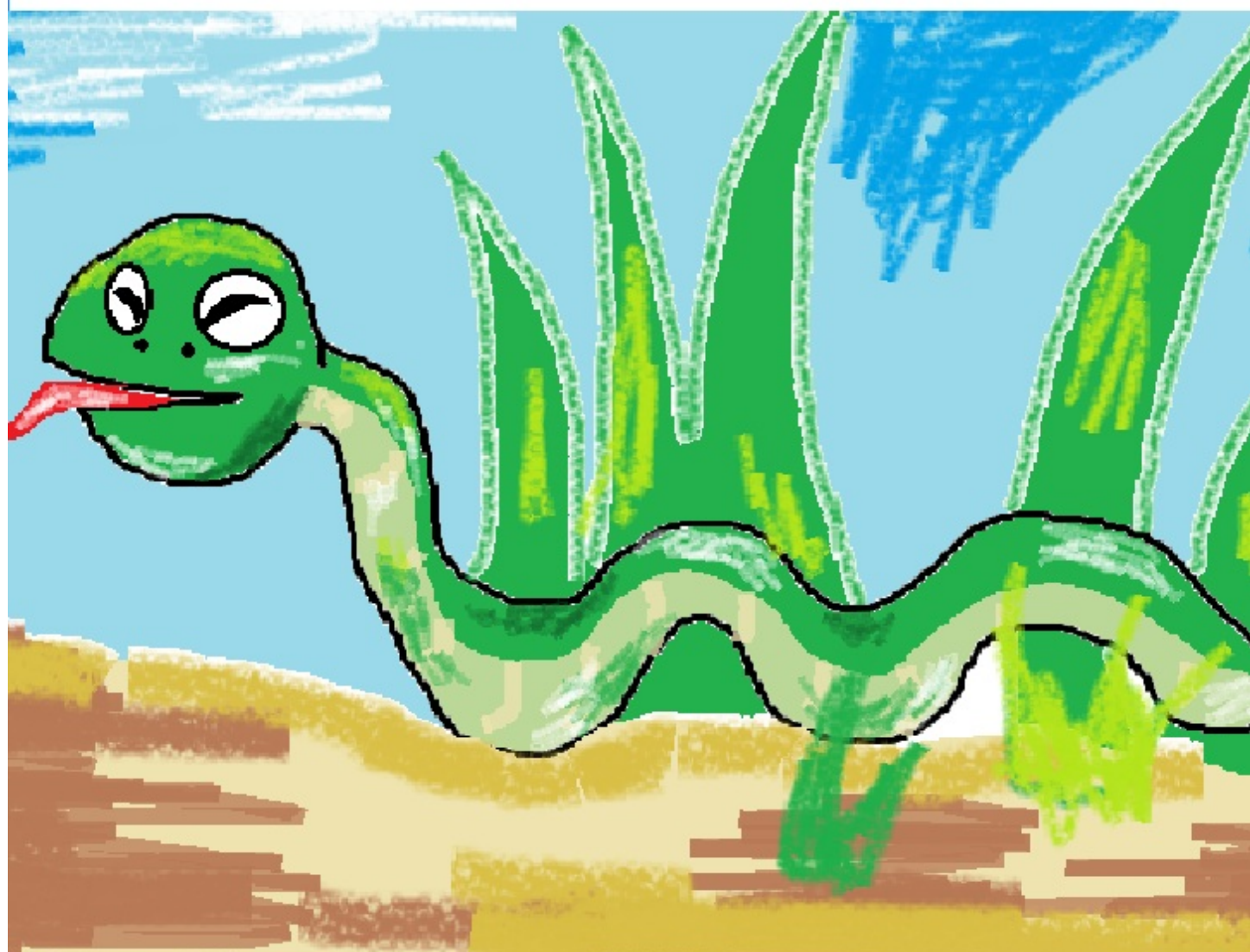


もう、たべたいしないよう

さく わきたあゆみ



へびくんが、えさをさがしています  
「きょうのえものはなにかなあ」



「おお、うまそうないきものたちがたくさんいるじゃないか」  
へびは、どうぶつやかえるたちをねらっておいかけました。

「わー！へびだにげろ！」

みんなおおあわて



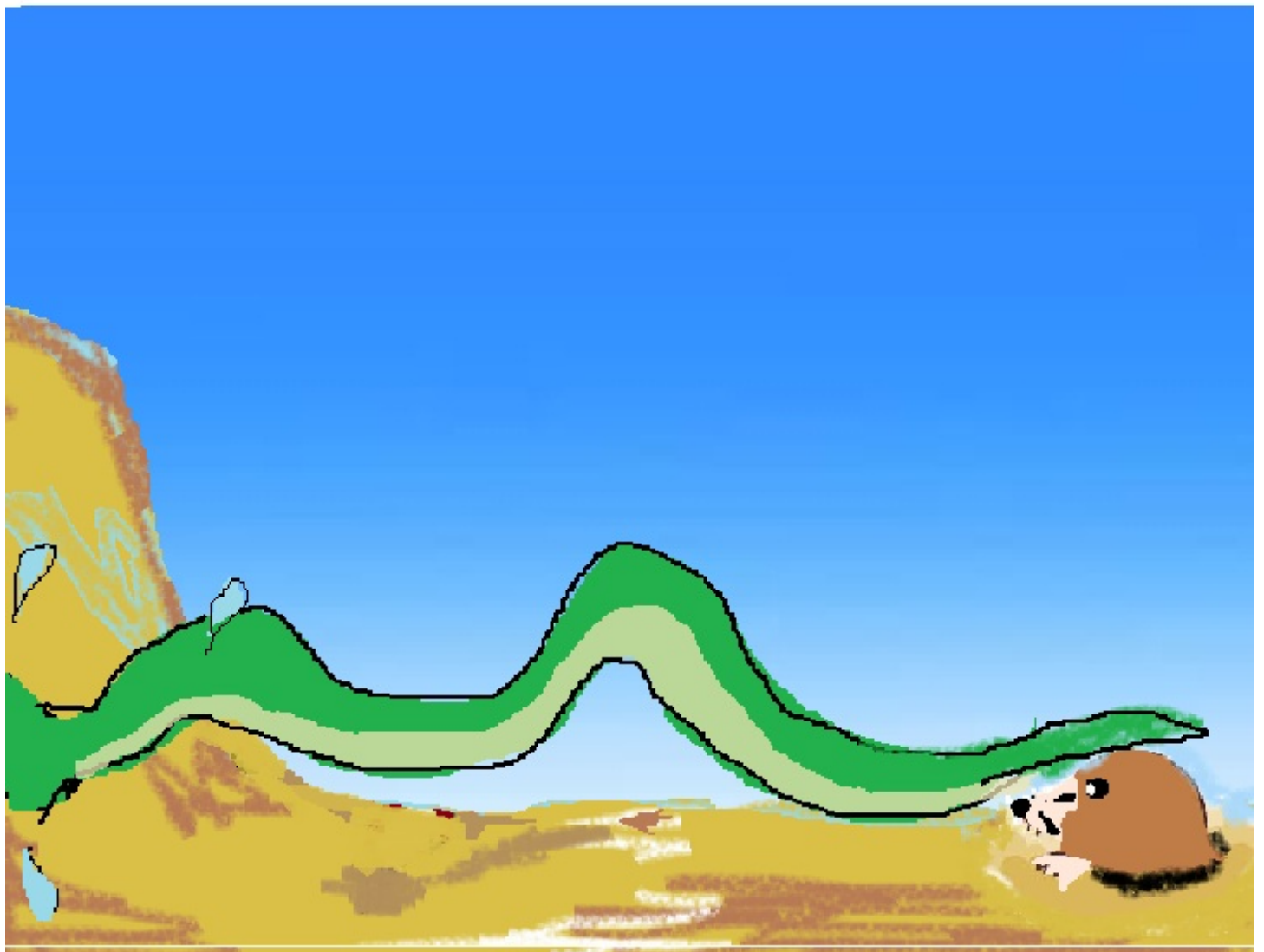
みつけたぞ！おいしそうなもぐらだ」  
「わー！へびだ〜！」  
もぐらはへびからにげて、  
じぶんのあけたあなへは行っていきました。

へびは、もぐらをつかまえようと  
あなにあたまをつっこみました。



すると、へびのあたまが  
あなからぬけなくなっていました。  
「わー！ぬけない、だっだれか！」

もぐらは、ちがうばしょからかおを  
だしてへびがぬけなくなっているのに気づきました。



「ふんっ、ぼくをたべようとしたのになにがだれかだ！だれがたすけてやるもんかっ」

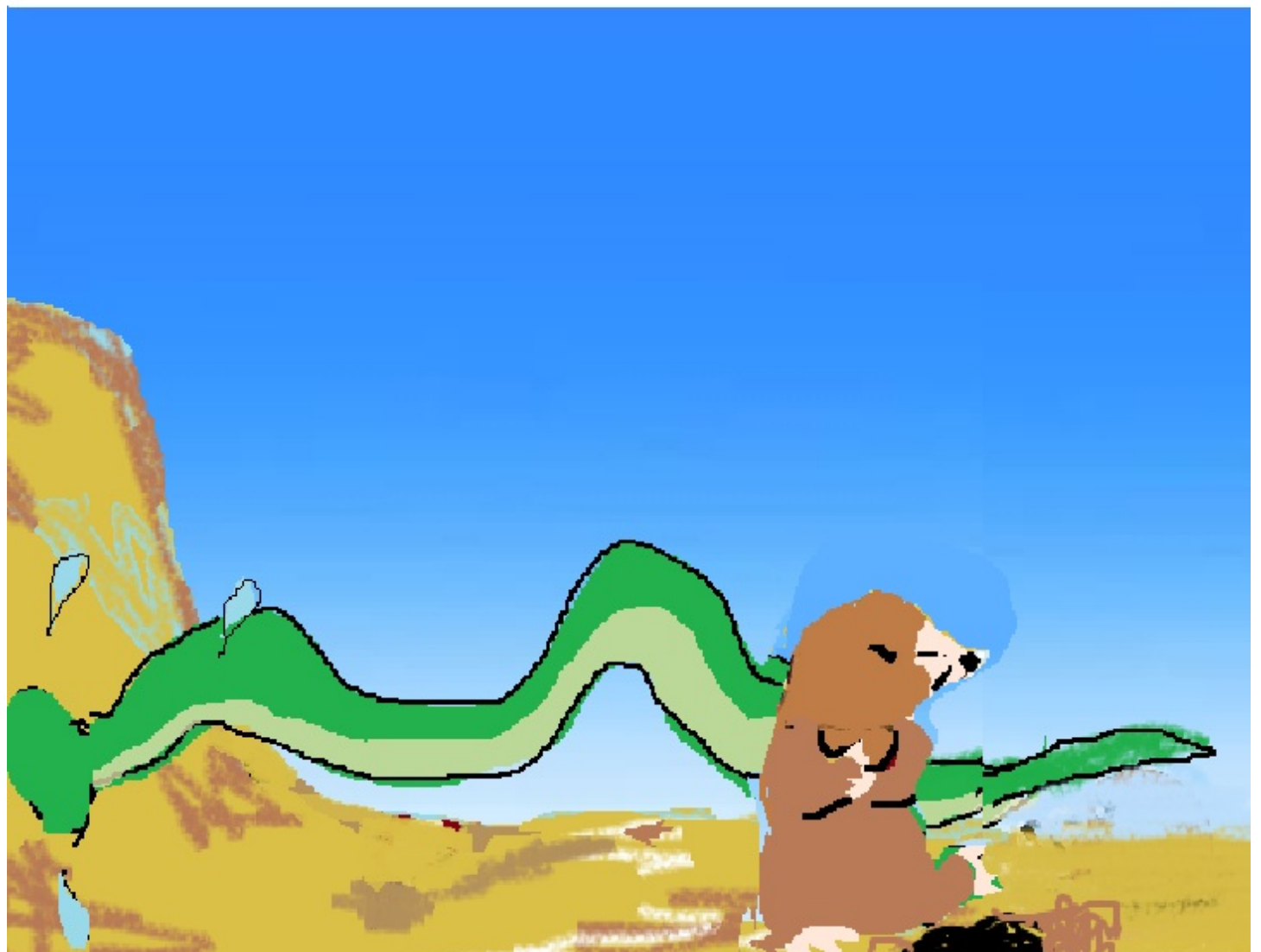
「わるかった、おれがわるかった、だからおれをたすけてくれっ」  
もぐらは、おこってへびをたすけようとしません。

「もう、たべたりしないから。 ぜったいにおそわないから」

もぐらはすこしへびがかわいそうになりました。

「ほんとうにおそわないとやくそくするなら、たすけてあげるよ」

「わかった、やくそくする！」



もぐらは、ぬるぬるするへびのからだをもってひっぱりました。  
よいっしょ よいっしょ  
へびはびくともしません。  
そこへ、うさぎがかおをだしました。  
「もぐらくん、そんなやつほっといたらいいのよ」  
「うさぎさん、てつだってっ」  
「たのむ！もう、たべたりしないからたすけてくれ！」  
うさぎは、へびのそのことばをきいてたすけることにしました。



もぐらとうさぎはひっしにひっぱりました。  
よいっしょ よいっしょ  
でも、へびはびくりともしません。





そこへ、ちいさなねずみがやってきました。  
「わははっ、おいらたちをおそったばつだ」  
うさぎはいいました。  
「ねずみくん、そんなこといわず、たすけてあげてよ。  
たすけたら、へびくんもうわたしたちのことたべないって」  
ねずみくんは、うさぎさんのことばをきいていっしょに  
ひっぱることにしました。  
「わかったよ、てつだうよ。」



もぐらとうさぎとねずみは、ひっしにぬるぬるすべるへびの  
からだをひっぱりました。

よいっしょ、よいっしょ

それでも、へびくんのあたまはぬけません。



そこへ、かえるがやってきました。

「なにをしてるケロ」

「カエルくん、へびくんをひっぱって」

ねずみはいいました。

「わるいやつなのに、なんでたすけるケロ」

「たすけてあげたら、もうにどとわるさをしないって」

カエルはなやみましたが、それならといちばんほそいぶぶんを  
もってひっぱりました。



もぐらとうさぎ、ねずみとカエルはいっしょうけんめい  
ひっぱりました。

よいっしょ よいっしょ

あと、もうすこし！すると……



ぽんっ！

へびのあたまはぬけました。  
みんなもそのいきおいでうしろにまえに

バタンツ



へびくんはにこにこしていました。  
「ありがとうみんな、もうみんなをたべたりしないし  
おそったりしないよ」

みんな、てれながらわらいました。

